



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄道) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.11.5 No.3487

予科生の仲間が証人になつた 11・12「運転士登用差別事件」地労委に集まるう!

いよいよ山場

すべての組合員のみならず、とりわけ、五五〇五七年採用予科生と強制配転された仲間のみなさん!

昨年三月三〇日、JR当局による露骨な運転士登用差別に対し、千葉地労委に申し立てた「運転士登用差別事件」地労委

闘争もいよいよ最後の山場を迎えています。既に、本地労委闘争では、組合証人として、中野委員長、田中書記長が本件不当労働行為の具体的立証を行い、当局側も伊藤嘉道人事課長、荒井稔輸送課長が証人として出廷しました。

JRの不当労働行為を

徹底的に暴け!

この間、JR当局は、八九年一月JR総連の予科生七名の運転士登用を行って以降、計二三名の予科生の運転士登用を強行しています。(国労一名を除き全員JR総連である)しかも、本年三月、七月にはJR移行後、新たに養成した計一三名

(全員JR総連)を運転士として登用しているの

われわれは、このJR当局のおごりたかぶり、まさに挑発的な攻撃を断じて許しません。

JR当局は地労委の場でも、団交の場でも、「就業規則に基づき公正に行っている」と完全に開き直っているのです。本件地労委闘争の勝利をもつて、JRの不当労働行為を暴き、JRをさらに社会的に追いつめていこうではありませんか。

差別の実態を

当事者が証言!

いよいよ次回審問において、本件地労委闘争は、荒井稔証人に対するJR移行後の運転士登用差別

に関する組合側反対尋問と、予科生を先頭に、次回

十一月二日午前十時、地労委に結集しよう!

本格的反撃の闘いへ! 営業分科会結成大会へ集まれ

JR当局は動力千葉の組織破壊を唯一の目的に、役員・活動家を強制配転し、今日なお運転士の差別・選別登用に見られるごとくJR総連と結託し、営業への塩づけ攻撃を続けている。

反転攻勢に!」を相言葉に営業協議会を結成し、動力千葉の運動の最先頭を担ってきた。

決し、本格的な権利奪還の闘いと自らの原職を奪還するために、営業分科会へと体制を強化します。全営業職場の組合員は、十一月一日一五時、動力車会館で行われる営業分科会結成大会に結集しよう!

高島喜久男著 「戦後労働運動私史」 出版を祝うつどい盛大に!

十月二十六日、動力千葉労働学校の校長である高島喜久男さんが書かれた「戦後労働運動私史」(全三巻・第三書館刊)の「出版を祝うつどい」が盛大に開催された。

「祝うつどい」には、市川誠さん(元総評議長)、清水慎三さん(元信州大学教授)、村上寛治さん(国労顧問)、西村卓司さん(三菱長崎連帯労組)、佐藤芳夫さん、宮島善勇さんなど、多士済々の方々が集い、現場の労働者とともに、全三巻・各巻五百という大著を執筆された高島さんの壮挙を祝い、労をねぎらった。



「戦後労働運動私史」は、動力千葉でも扱っています。各巻五千円。現在は第一巻のみ第二巻は年内に刊行の予定です。